

地方都市視察報告書

環境建設委員会

1 実施日

平成29年11月15日（水）

2 視察地 京都府京都市

【市の概要】

(1) 面積 827.8km²

(2) 人口・世帯数（平成29年7月1日現在）

人口 1,416,627人

世帯数 707,944世帯

(3) 京都市は、1889年（明治22年）に市制を施行。世界的にも有名な文化観光都市であり、大阪、神戸と並んで近畿圏のいわゆる「3都」の一つに数えられる。政令指定都市の中では、全国第8位の人口規模（平成29年5月現在）を有している。

明治時代になるまで約千年もの間、天皇家、公家が居を構え、「千年の都」と呼ばれ、政治・文化の中心として栄えてきた。江戸時代には全国に製品を出荷する商工業都市として栄え、多くの伝統工芸や産業、文化が発達した。その系譜は、日本の先端技術を保有し、各業界トップクラスの多くの企業の本社が集積するなど、現代まで脈々と続いている。

戦災による被害を免れた寺社・仏閣、古い史跡・街並みが数多くあり、様々な歴史文化や季節ごとのお祭りなど、四季折々の観光資源が豊かで、国内外から多くの観光客を魅了してやまない観光都市であるとともに、京都大学をはじめ多くの大学が集積し、国内外から学生や研究者が集まる学術研究都市という一面もある。



3 視察項目・内容

(1) リサイクル資源を活用した優勝メダルの制作について

4 視察参加者

【委員】

ひやま真一委員長

井下田栄一副委員長

小野裕次郎委員

桑原羊平委員

あざみ民栄委員

有馬としろう委員

ふじ川たかし委員

宮坂俊文委員

雨宮武彦委員

【随行】

議会事務局議事係

唐澤 一彰

仙崎 雄介

5 視察結果・所感

京都市は、ピーク時からのごみの半減を目的とする「新・ごみ半減プラン」を推進している。その取り組みの一環として、循環資源・リサイクルを見える化し、ごみの減量、市民のリサイクル意識の向上を図るため、全国で初めて、使用済み小型家電から回収した「金」を100%使用した、京都マラソン2018の優勝メダルの制作に取り組んでいる。

本事業は、金めっき加工技術のある地元事業者がいることによって実現したものであり、地元産業の発展と市民のリサイクル意識の向上に繋がることから、非常に良い取り組みである。回収ボックスは、商業施設や行政施設を中心に市内に54か所設置され、回収実績は年々増加しているとのことであった。また、宅配便による自宅からの回収も行っており、パソコン回収も含めれば無料になるという、市民にとっては利便性の高い取り組みも行っている。

京都マラソン後のメダル制作の取り組みについては、現在検討中であるとのことであったが、区民のリサイクル意識の向上のためには、何らかの見える化する取り組みは、有効な手段であると感じた。新宿区においても、東京2020オリンピック・パラリンピック大会における「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に向けて小型家電の回収に努めるとともに、今後の新宿区におけるスポーツ事業とリサイクル事業を組み合わせた取り組みに大変参考になった。

6 主な質疑項目

- (1) リサイクル資源を活用した優勝メダルの制作事業のきっかけについて
- (2) 金メダルを3つ制作するために必要な小型家電の回収量について
- (3) 小型家電の回収場所と回収量の状況について
- (4) リサイクルボックスからの回収頻度について
- (5) 小型家電宅配便による自宅からの回収について（利用状況、条件等）
- (6) 京都市と金メッキ加工業者等との役割分担について
- (7) 京都マラソン後のメダル制作の取り組みについて

7 その他

【共同理事者】

環境清掃部新宿清掃事務所長 山本 秀樹

